

## 日本の太鼓の授業づくりについて学ぶために・・・

音楽教育 石塚真子

### 1、授業の概要

「日本音楽教材研究①」は、2年生を対象に後期に開講。受講者は、12名である。

この授業は、日本の伝統音楽では何が大切にされているのか基礎的な知識を得ることと、学習材としてとり上げる際の考え方と方法について理解することを目的としている。

授業内容は、1/3 が日本の太鼓に関する講義、1/3 が日本の太鼓の実技演習、1/3 が日本の太鼓の授業づくりについての演習・講義を行った。

### 2、授業づくりの考え方を学ぶために

前半の1/3は、小・中学校の音楽の教科書にとり上げられている日本の伝統音楽に関する学習材の分類・分析をグループ演習で行なった。さらに、日本の伝統的な楽器の中から日本の太鼓をとり上げ、民俗芸能の太鼓と創作太鼓の特徴について講義を行った。

つぎの1/3は、太鼓の実技演習の可能な時間帯に、太鼓の実技演習を行った。4コマという短時間の演習であったため、実技を身につけるという目的ではなく、授業づくりと関連する3つの授業モデルの体験を行った。

後半の1/3は、日本の太鼓の授業づくりの考え方を学ぶため、太鼓の実技演習で行った内容の分析を行い、その後、グループで日本の太鼓の授業づくりを行った。

日本の伝統音楽・日本の太鼓に関する知識、太鼓の実技演習、授業づくりを通して、日本の太鼓の授業づくりにおける学習材研究を行うことができるように授業を構築した。

### 3、学生の授業評価

日本の太鼓の授業づくりを行うにあたって、この授業でのとり組みについて、質問紙調査を行った。

#### (1)太鼓の実技演習に要した時間について

(回答数 12名)

① 多かった	0名
② 充分であった	5名
③ 少なかった	4名
④ その他	2名

実技演習に要した時間については、その他に回答した学生、充分であったと回答した学生の、もっとやりたいとの感想を合わせると、日本の太鼓の授業づくりを行うにあたって、半数以上が、太鼓の実技演習に要した時間が少なかったと考えているという結果であった。

#### (2)太鼓の実技演習を行った授業時間について

(回答数 12名)

①授業外でも体験できてよかった	10名
②授業内に行えないことは、とり組まないとよい	0名
③どちらでもよい	1名
④その他	0名

太鼓の実技演習については、授業時間枠外の指定時間にとり組むことになっているため、授業外の時間にとり組んだ。日程については、受講学生と調整しながら行った。そのことについては、ほとんどの学生が太鼓の実技演習を行ったことについて、よかったと回答をしている。

しかし、日程については、受講生と調整するのではなく、「早い時期に先に日程を決めて知らせしてほしい」や、「実技演習をもっと行いたいので、

授業枠を工夫してほしい」などの意見もあったので、日程については、今後の課題として検討したい。

(3)日本の太鼓の授業づくりを行いたい。

(回答数 12名)

①行ってみたい	7名
②授業づくりについて考えただけで充分だった	1名
③行わない方がよい	0名
④その他	3名

今回の授業では、授業づくりについて考え、指導案を作成したが、模擬授業を行うことはできなかった。実際に教育現場で授業を行う力を身につけることを考えた場合、学習材研究のみならず、授業研究も行うことが必要であろう。今後、現状の条件の中で、日本の太鼓の基礎的な知識を得ることと、学習材としてとり上げる際の考え方と方法について理解できるような授業について検討したい。

また、「その他」に、「行ってみたいが、もう少し理解を深めてから」という回答があった(2名)。確かに、これまで体験したことのない楽器の授業づくりを行うことは、知識面においても技能面においても不安であろう。15コマの授業の中でとり組めることも限られてくる。授業内容の精選と、日本音楽教材研究②とリンクすることで、解決していきたい。

(4)授業についての感想

①いざ指導するときに、大切なことを書こうと思った時に、自然と「たしか授業ではこうだった」というのが出てきて、それだけ身になる授業だったのだなぁと思いました。

太鼓の実技演習の内容について、当初は、基礎的な演奏技術を学ぶための内容にするか、実際の小・中学生の授業でとり組む内容と方法で行うのか選択に迷ったが、学生にとって、講義内容、実技演習、授業づくりがリンクできたようであるので、今後もこの内容ですすめたいと考える。

②授業の中で使用した資料は、出版物もあれば、先生自身が足で集めたものもあって、この授業を受けて、自分の足で資料を集めることが大事

だなぁと思いました。

民俗芸能の太鼓における学習材研究は、フィールドワークを行うことが望まれる。学習材研究の一つの方法として、フィールドワークの重要性に意識が向いた学生がいたので、さらに多くの学生が理解できるような、民俗芸能の太鼓ならではの学習材研究について伝えていきたいと考える。

③自分が授業をしていくときにも困ってしまうと思うので、実技体験をすることにとっても意味があると思いました。

教育現場で指導できるだけの基礎的な演奏技術を身につけるには、授業内だけではなく、授業外での練習も不可欠である。

現状の条件の中で、この授業を、知識の理解、授業づくりの考え方の理解のレベルで完結させるのか、ある程度の演奏技術を身につける授業にするのかなど、課題が残る。

今年度、初めてこのような内容で取り組んでみたが、学生からの授業評価と授業者自身の省察を基に、今後の授業内容について検討したい。

#### 4、今後の課題

授業の予習、復習のための課題を、適宜行ったが、できる範囲の実技課題や、予習のための資料を充実した方が、基礎知識の理解を促すことができたのではないと思われる。次年度は、授業内容の理解を促進できるような予習、復習のための課題を工夫したい。

現状の条件の中で授業を行うには、多大な労力を要した。また、今年度の授業方法は、何よりも学生の理解と協力なくしてはできなかった。受講学生に、とても感謝している。

いろいろな課題を抱えての授業ではあるが、一歩々課題を解決していきたい。